

## 住民を勇気づけたボランティアのみなさんの姿



▲ 2011（平成 23）年 9 月 28 日午前 9 時過ぎ、災害ボランティアセンターの前には多くのボランティアが集合していた。

写真提供 南三陸町社会福祉協議会

2011（平成 23）年 3 月 26 日、南三陸町社会福祉協議会は、山形県社会福祉協議会と大阪府の堺市社会福祉協議会の支援を受けてベイサイドアリーナの敷地内に災害ボランティアセンターを立ち上げた。

全国から集まった個人のボランティアに加え、企業名の入ったビブスを身に着けた企業ボランティアや NPO、NGO などが毎朝、災害ボランティアセンターの前に行列を作った。災害ボランティアセンターは、2016（平成 28）年 3 月までに延べ 15 万 1,000 人のボランティアを受け入れた。災害ボランティアセンターで受付せずに直接活動したボランティアを含めると 20 万人以上の人々が南三陸町で何らかの支援活動を行っており、10 年を過ぎても支援活動を続けている団体や個人も多い。

被災した住民たちが仮設住宅に落ち着いて以降、ボランティアは、産業支援の作業に移行した。海浜・田畑の瓦礫撤去、漁具などの整備、漁港の復旧から始まり、農業では種まきや草取り、収穫の支援、水産業ではワカメの収穫支援など多岐に渡る作業をお手伝いいただいた。

南三陸町の漁業者たちは、ボランティアのみなさんが収穫したてのワカメの味に感動するのを目の当たりにして、自らの生業の価値を再認識した。ボランティアの存在は、私たちの復興の大きな力となった。絶望のどん底にいた私たちにふるさとへの誇りを見出させ、決してあきらめず奮い立たせる力を与えて続けてくれたのは、南三陸町に通い続けてくれたボランティアのみなさんにほかならなかった。